

平成24年度第2回八街市地域公共交通協議会 会議要旨

- 日時 : 平成24年11月19日(月) 午後3時～午後5時
- 会場 : 八街市総合保健福祉センター3階 大会議室
- 出席者 : 委員25名中出席者23名(代理出席者5名を含む。)、欠席2名
- 傍聴人 : 5名
- 委員の変更 : 東日本旅客鉄道株式会社 千葉支社 総務部企画室長 三澤恒二郎氏
- 会議要旨 :

3. 議題

(1) 市民移動実態・ニーズ調査について(報告)

- ・事務局 : (資料説明)
- ・小沢会長 : 質問や意見があればどうぞ。
- ・中村委員 : 市民アンケート調査に関して、2つ質問がある。
「代替でふれあいバスを使ってもいい」、「路線バスでもいい」という人もそれなりにいると思うが、これには条件付きで良いと答えていると思う。どのような条件で、アンケート調査を行ったのかが知りたい。
「自家用車から、ほかの公共交通へ代えても良い」と答えた人の中で、現状のサービスで良いのか、サービスを改善した場合は良いと答えているのかが知りたい。
- ・事務局 : (アンケート調査票を説明)
現在の日常の外出状況を聞く一環で、現在の移動手段(自家用車)からの代替可能性を聞いている。
- ・中村委員 : 「バスに代えてもよい」と言っている人が、それでも車で移動している問題等も知っておきたい気がした。
- ・轟委員 : P7のことで、代替してもいいが実際は自家用車を利用している人は、何らかの改善策が無いと移らないということなので、その改善策を提示していけるかがポイント。どうしても自動車の利便性をバスが超えるのは難しいので、この方々が全員移ることは無いという認識でいたほうがよい。代替可能性の算出に関して、自動車利用の人のみに答えてもらっているので、人口換算すると過大かなと思った。自家用車利用と回答した人を分母として計算したほうがよい。
- ・事務局 : 計算方法を修正する。

(2) バスの利用実態・ニーズ調査等について

- ・事務局 : (資料説明)
- ・中村委員 : 新たなアンケート調査について、ふれあいバスもしくは路線バスの利用者を対象に実施しようとしているが、現状で利用している人に聞いても、運行本数を増やしてほしい等の要望しか出てこない。それよりは、今利用していない人を対象にして調査を実施すべき。既に実施されている市民アンケートについて、真剣に答えていただけている人に追加でアンケートをお願いしてもいいのではないか。
- ・事務局 : 無記名でアンケートをお願いしているので、追跡調査を実施することは無

理である。

- ・中村委員：アンケートの実施について、もう少し検討して、実施したほうがよいのではないかと思う。
- ・佐藤委員：その意見には賛成である。私の回りで、老人ホーム等、本当にバスを必要としている人にアンケートが全く来た様子がない。各地域にもう一回、区長などへのアンケートをやってほしい。
- ・事務局：必要があれば、区長へのアンケート調査等も検討していきたい。
- ・佐藤委員：公共交通改善に向けた、スケジュールがわからないので不安である。
- ・小沢会長：現時点でのスケジュールを先に明確にしたい。
- ・事務局：(スケジュールに関する説明)
- ・小沢会長：公共交通のあり方を検討する前に、ニーズを把握してほしいという意見かと思うが、アンケートの結果をもとに、年度内の方向性を決定したい。それぞれの地区にアンケートを実施するというのは厳しいが、地区の意見を反映できるよう試みていきたい。

(3) 地域公共交通のあり方の検討について

- ・事務局：(資料説明)
- ・小沢会長：事業者の方々、何かご意見があればどうぞ。
- ・鶴沢委員(千葉交通㈱)：バス会社それぞれが協力して八街駅への路線バスを運行していたが、市で運営されているコミュニティバスが、八街駅へ乗り入れることになってから、路線バスの運営を圧迫してきたと思う。実際、コミュニティバスの影響で、自社の1路線を廃止せざるを得なくなった。しかし、八街市のコミュニティーバスが一番成功した例である。コミュニティーバスも、路線バス2社が運行することにより、八街駅に入れるようになった。デマンドタクシーを導入すれば、路線バスの運営にさらに支障が出るのではないか。事業者としては、現状のままが良いと思うので、路線バスをこのまま維持しながら、足りない部分をコミュニティバスやデマンドタクシー等で補う形にしてほしい。
- ・池田代理(ちばフラワーバス㈱)：国から補助をもらって運行している路線を含めて、3路線運行しているが、これがすべて不採算路線というのが実態。この路線は高速バスの収益や補助金を使って運用している。平成24年度の上半期決算が前年比-3%と大きく落ち込んでいる中で、従来のように高速バスの収益で賄うというのが厳しい現状に陥っている。
- ・田中委員(九十九里鐵道㈱)：コミュニティバスの利便性向上により、路線バスの利用者が減少しており、赤字となっている。また、当社の路線バスは、八街市からの補助金はもらっていない。最悪の場合は、路線バスの廃止も検討しなければならない状況であることを理解して頂きたい。
- ・小沢会長：公共交通のあり方に関して意見があればお願いしたい。
- ・中村委員：パターンをいくつか提示して頂き参考になる。バス会社の方の経営困難は、全国的な傾向で重々承知だが、鉄道駅から放射方向の路線バスに、需要を集めたらよいのではないか。ふれあいバス等を横に繋げることで利用を拡大していけるのではないか。

八街の公共交通機関の問題点を整理し、そして解決策を提示してもらえたほうが良かった。示された案には、関連することは書かれているが、問題解決のための提案が不十分のような気がする。

- ・事務局 : 次回までに長所・短所を含め記載するようにしたい。
- ・小沢会長 : 今回の案に関する意見については、後日改めて、意見照会をしたいと考えているので、利用者、事業者、商業者等の皆様の立場で、意見を頂きたい。
- ・岩崎委員 : 今回のこの案は、公共交通総合連携計画を作成するための基礎資料で、今後2～3年(実証運行を含む。)というスパンで八街市にとってふさわしい連携計画を定めるための素案である。その検討の中で、事業者や市民、商業者や教育関係者の意見を持ち合って計画する。さきほどあったように、コミュニティバスやデマンドタクシーが事業者を圧迫する、共倒れになるといった危険性も含め、この資料によくまとめられている。市民アンケートや今後実施する利用者調査、事業者の意見も踏まえながら、連携計画をつくっていくことになると考えている。その際には、各主体が責任を持って意見を出し合う。その参考になる先進事例も示されているので、それをふまえて八街市に合ったパターンを取り入れていくのが良い。ここにおられる皆様の知恵の出し合いで決まっていくものである。
- ・小沢会長 : 全体のスケジュールの確認をお願いします。
- ・事務局 : 今回は1回目の基礎調査分析やニーズ調査を含めて公共交通のあり方の頭出しをし、次回は1月末に第3回目の会議を開催する予定。その際には皆さんへの意見照会をしたいと考えている。それらを踏まえて、各事業者の調査等をまとめて調査結果資料を配りたい。そして、連携計画の素案を次回に提示したい。計画策定事業としては今年度で終了となるが、来年度以降については今後運輸支局と協議し、調査事業を含め可能かどうか考えたい。
- ・轟委員 : P20の山武市の事例で説明するが、山武市の連携計画は、本線と支線を決定して、そこ以外の区域でデマンドタクシーを利用してもらおうという考えを定めたもので、長所・短所を列挙し、事業者や市民で議論をした上で、その考え方を定めた。そうして、その連携計画をもとに、実証実験をしながら、細かい改善点等を検討し、数年かけて徐々に公共交通システムを変えていく。どの都市でも、このような取り組みしかできないと思う。このようなスケジュール感を共有することが大切である。八街市の場合でも、まずは今日示された案を理解し、意見をいただきたい。今回の案のポイントは、
 - 一案①は、現在のパターンを少し改善するものになる。現状の問題点等の整理は必要だが、その問題を改善し、路線バスとの兼ね合いをうまく調整するといった案と理解している。
 - 一案②は、運行頻度を上げていく案で、路線バスへの乗り継ぎを前提としたような方向性で良いのか検討することがポイントになる。
 - 一案③、④は、そのシステムを変えた案。コミュニティバスにするのか、デマンドタクシーにするのかを、メリット・デメリットをふまえながら検討していくことになるのだろう。

この選択案の選択は、事業者や市民に選択してもらいたい。外部から押し付けられた案はなじまないなので、どうか皆さんで選択して頂きたい。

・小沢会長：最後、先生にまとめていただいたが、本日の議論は、これで終了としたい。

※次回開催は1月下旬を予定。